

実施要領 様式11(第13条関係)

【認知症対応型共同生活介護用】

評価結果公表票

作成日 平成22年 7月 2日

【評価実施概要】

事業所番号	0290100106
法人名	社会福祉法人 青空会
事業所名	グループホーム青空倶楽部 奥野館
所在地	青森市奥野2丁目27番10号 (電話) 017-763-4577
評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成22年3月6日

【情報提供票より】(平成22年2月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成14年3月15日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6人, 非常勤 2人, 常勤換算	6.2人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	3 階建ての 3 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 10,000 円他
敷 金	有 60,000円		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4)利用者の概要(平成22年2月1日現在)

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名
要介護3	3 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 80.2 歳	最低 59 歳	最高 91 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	あおもり協立病院、ミナトヤ歯科
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者の家族介護の経験から、福祉事業の重要性を感じ、設置に至っている。  
 地域との関わりを大切に考え、町内会に加入している。夏には駐車場を利用してホームの夏祭りを開催し、家族や地域の方に参加を呼び掛ける等、利用者、家族、地域住民の交流の機会を設けている。  
 ボランティアや実習生を積極的に受け入れをしているほか、包括支援センターの認知症予防寸劇の役者として職員が参加し、認知症の予防普及活動に参画している。  
 認知症ケアを考える会に参加し、他の事業者との交流を深め、得られた情報を日々のケアの向上に反映させている。  
 ホームの利用相談があった場合は、事前にホーム内や設備を見学してもらったり、希望や意向を十分聞き入れ納得した上で利用契約を結んでいる。  
 重度化や終末期に向けた対応に取り組んでおり、方針を定め、家族や医療機関と話し合いがもたれている。

【特に改善が求められる点】

権利擁護について全職員が理解を深めると共に、利用者や家族に対し情報を提供し、事業利用につなげる支援の取り組みに期待したい。  
 個人情報保護法について全職員が理解する取り組みに期待したい。  
 献立等について定期的に栄養士等の専門家から指導助言を受ける体制の取り組みに期待したい。  
 感染症の予防について、家族等に対して広報誌等を活用した情報提供の取り組みに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価の結果を基に、内容を全職員で話し合うとともに、運営推進会議でも協議し、改善に向けた取り組みを図っており、ケアの向上に努めている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は、自己評価の目的や意義をよく理解しており、評価に当たっては職員全員が評価に携わり、意見を聞いた上で、自己評価を作成している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、ホームの運営方針年間計画を協議し、出された意見を日々のケアに活かす取り組みをしている。自己評価、外部評価の結果も報告され、日常のケアに向けた取り組みについても意見を求めている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>毎月お便りを出し、暮らしぶりや健康状態、受診状況、金銭の出納状況を報告している。</p> <p>玄関前に内外部の苦情相談窓口の連絡先を掲示したり、面会時に不安なことがないか聞いたりして、家族が苦情や意見を出しやすい工夫を行っている。出された意見や要望は、職員全員で協議し、日々のケアに反映する取り組みをしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、地域とのかかわりを大切に考え、夏祭りの開催の際には家族や地域の方に広く呼びかけ交流の機会を設けている。</p> <p>ボランティアや実習生を積極的に受け入れており、外部の者を受け入れる際は、プライバシーへの配慮に努めている。また、職員が包括支援センターの認知症予防寸劇の役者として参加し、認知症予防普及活動に関わっている。</p>

【各領域の取組状況】

領域	取り組み状況
I 理念に基づく運営	<p>管理者や職員は、地域密着型サービスの役割を理解し、前回の外部評価の結果を基に、理念を見直し、理念の実現に向け日々ケアの向上に努めている。また、契約に当たっては、理念や運営方針等納得がいくまで説明をし、特に退居や契約解除についても事前に説明し契約している。</p> <p>地域、県、全国のグループホーム協会に加入するほか、認知症ケアを考える会にも参加し、交流を行っており、同業者との交流を通じて情報交換や運営に関する助言を受け、得た情報を日々のサービス向上につなげている。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>利用者が安心して生活できるよう利用者本位のサービスに努め、ホームの雰囲気や設備を見学してもらったり、職員が利用者宅を訪問し、利用者の日常生活の把握に努めており、利用者や家族の意向に沿った取り組みを行っている。</p> <p>利用者の能力に応じて食事の準備や後片付け、プランターでの野菜作り、季節に合った作品作りを行うなど、積極的に作業を行ってもらい、利用者と職員が喜怒哀楽を分かち合っている。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>日々利用者 と接する中で、利用者の言動の変化や身体状況を観察しながら、利用者の意向を把握している。意思表示が困難な利用者に対しては、職員が協議し、必要に応じて家族の意見を聞きながら介護計画の作成に当たっている。</p> <p>介護計画は、実施期間を定め、6ヶ月ごとに見直しを行っており、状態の変化があった場合は随時見直しを図っている。</p> <p>通院や外出等、利用者や家族の希望に柔軟に対応している。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>利用者の言動を否定しないよう、身体状況やペースに合わせたケアに取り組み、一人ひとりを尊重した介護や声がけに配慮している。</p> <p>利用者の希望や生活歴を把握しており、本人の能力に応じた作業を職員と共同して行っている。</p> <p>共用スペースでは、自由にのんびりと生活できるようソファなどが配置されるとともに、観葉植物や花が飾られている。利用者の居室には、馴染みの物が持ち込まれ居心地の良い空間作りがされている。</p>

# 評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回の外部評価の結果を基に理念を再検討し、これまでの理念に地域密着型サービスの役割を反映させた理念を加え、現在に至っている。管理者や職員は、地域密着型サービスの役割を理解し、地域との関わりを大切にしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員が理念を共有できるよう、目に付きやすい台所に掲示しているほか、毎月の職員会議の際に理念を確認し合っており、日々のケアサービスの反映に努めている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内会に加入しており、ラジオ体操への参加や避難訓練への参加呼びかけを行っているほか、散歩の際にはお互いに挨拶を交わすようにしている。また、夏祭り際には家族や地域住民が積極的に参加できるよう働きかけをしており、交流の機会をつくっている。ホームの見学、ボランティアや実習生を積極的に受け入れており、外部の者を受け入れた際には、十分な説明や同意を得るなどプライバシーの配慮をしている。包括支援センターの認知症予防寸劇の役者として職員が加わっており、認知症予防普及活動にも協力している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者及び管理者、職員は自己評価や外部評価の意義を理解し、自己評価に当たっては全職員が取り組み確認を行った上で、提出している。また、外部評価の結果に基づき話し合いの機会を持ち、今後のケアの向上に向けた取り組みを行っている。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回、委員ができるだけ多く参加できる日時に開催している。会議では、運営の方針や年間の行事予定の報告、情報交換を行うなど活発な意見を出してもらい、日頃のケアの向上につなげている。また、自己評価、外部評価の結果を報告し意見を求めている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月『青空だより』を配布するほか、運営推進会議議事録を配布したり、自己評価、外部評価の結果も報告している。必要に応じ運営面の助言を受けている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	以前利用者に対象となるような方がいたため、管理者は権利擁護について概ね理解している。研修会を近いうちに開催し職員が制度について理解する予定であるが、利用者や家族に対し情報提供し、事業利用につなげる支援までには至っていない。	○	全職員が制度について理解を深めると共に、利用者や家族に対しても日常生活自立支援事業の情報提供する取り組みに期待したい。
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、研修を通して虐待防止に関する共通理解を図る取り組みをしており、万一、虐待があった場合の対応方法などについてのマニュアル等を整備し、虐待のないケアの実践に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
9	10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、事業所の理念や運営方針について書面にに基づき説明を行い、納得した上で契約を取り交わしている。契約解除や退居についても十分説明し、同意を得ており、退居後の支援についても、情報提供する等他事業所につなげる支援を行っている。		
10	12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月便りを配布するほか、電話や面会時に利用者の暮らしぶりや健康状態、受診状況を報告している。また、利用者の金銭管理についても出納帳や領収書を添付して報告している。職員に異動があった場合には、便りや面会通じて連絡している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関の掲示場に内部及び外部の苦情相談窓口について掲示するとともに、意見や要望が無いか面会時に伺うようにしている。意見や要望、苦情があった場合は、職員会議等で話し合い、出された意見を日頃のケアにつなげる努力をしている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動による利用者の影響について理解しており、異動があった場合は、十分な引継ぎをするほか、慣れるまで複数で対応するなど配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
13	17	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者や管理者は、職員研修の必要性を理解し、勤務体制の配慮や年間研修計画による外部研修への派遣を行っている。研修受講後は、報告書を作成し、それを基に内部研修を実施している。また、運営面等に関して町の職員や他の施設から助言をいただく外部の人材が確保されている。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東青及び県、全国グループホーム協会に加入し、研修を受ける他、認知症ケアを考える会に加入し、情報交換や運営に関する相談助言を受けている。また、他施設との交流を行っており、得た情報を日頃のケアの向上につなげている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前からホームを見学してもらい設備、運営状況を確認してもらったり、職員が利用者宅を訪問し、利用者の生活歴や趣味、嗜好を把握するなど、利用者や家族の意向に沿って安心して利用できる取り組みを行っている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	アセスメントや日々の観察等により、利用者の喜怒哀楽を把握するよう努めている。また、利用者にケーキやたこ焼き作り、習字や作品の飾りつけなどで能力を発揮してもらったり、プランターによる野菜作りを利用者と職員が共同して行うなど、共に支えあう関係づくりに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の身体の動きや態度、日頃の接し方によって利用者の意向や希望の把握に努めている。意向や希望の把握が困難な場合は、家族に相談したり、職員会議等で十分話し合いを行っている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月職員会議等で十分に検討し、必要に応じて医療機関や関係機関の意見を聞きながら、利用者や家族の意見を反映させた個別具体的な介護計画の作成を行っている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月の実施期間を明示し、見直しを行っている。状態の変化があった場合には再アセスメントを行い、その都度計画の見直しを行っている。見直しの際には、これまでの経過を踏まえ、利用者や家族の意向を聞いた上で、全職員で見直しに取り組んでいる。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制による往診や訪問看護のほか、通院や花見やねぶた祭見学などの遠足を毎月行い、利用者や家族の希望に柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの受療状況を把握しており、利用者や家族の希望する医療機関での受診に配慮している。協力医療機関をかかりつけ医としており、月2回の定期的な往診による健康管理のほか、いつでも相談ができるような体制を整え、受診状況をその都度家族に報告し、情報交換や話し合いを行っている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のケア対応をしており、家族や医療機関を交えて対応方針を説明し、利用者家族の理解に努めている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の言動を否定したり拒否することのないケアの実践に取り組み、声かけや利用者の羞恥心に配慮をしている。個人記録は外部の人の目が届かないところに保管しているが、個人情報保護法について理解するまでにはいたっていない。	○	来年度研修を実施予定であることから、全職員が個人情報保護について理解することに期待したい。
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活パターンを把握し、利用者の言動を否定することなく、利用者のペースや健康状態、希望に応じた柔軟なケアに取り組んでいる。		



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	アセスメントにより嗜好を把握しており、好みに応じた献立作りに配慮し、苦手なものには代替食を提供している。利用者と職員と一緒に食卓につき、さりげなく食べこぼしのサポートをし、会話を楽しみながら食事をとっている。また、食事の準備や後片付けなどは、利用者の能力に応じて行ってもらっている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外午後に入浴できる体制になっており、利用者個々の湯加減等の好みを把握し、最低週2回は入浴してもらっている。安全面を考慮して介助が行われており、羞恥心に配慮して同性介助も行っている。また、入浴を拒否する利用者に対しては、声がけの工夫等で入浴を促したり、入浴日をずらすなどの柔軟な対応を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメント等により利用者の生活歴や趣味、希望などを把握しており、本人の能力に応じて工作やプランターでの野菜作りを職員と共同して行っている。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の身体状況や健康状態、希望により、自宅や希望する場所への外出、お墓参り等が日常的にできるよう支援している。また、利用者の気分や身体状況に応じた支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を通して身体拘束について全職員が理解をしており、身体拘束のないケアに努めている。万一身体拘束が必要となった場合には、その理由や方法、期間等を記録する様式を準備しており、家族の同意を得、経過観察等の記録をとる体制をとっている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関等、日中は施錠しておらず、利用者が自由に入出りできる状態となっている。やむを得ず施錠等を行う場合には、家族等に口頭にて説明を行っている。無断外出がないか常に見守りを行っており、外出傾向を察知した場合は、さりげなく付き添う支援をしている。また、無断外出の際の近隣への協力体制もとられている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年4回、日中・夜間を想定した避難訓練を実施しており、万一災害があった場合の避難誘導方法等について消防署と話し合いがもたれている。また、近隣の協力体制も整っている。また、災害時に備え、飲料水、食料や寝具等を準備している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスやカロリーに配慮した献立を作成している。一日の総カロリーは1,500kcal、総水分量は1,000ccを目安として提供している。一日の食事や水分の摂取量を個々に記録しているが、栄養士等から指導や助言を得られる体制となっていない。	○	献立等について定期的に栄養士等の専門家から指導助言を得られる体制の取り組みに期待したい。
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関するマニュアルが整備されており、新しい情報が入ってきた場合は、対策を検討しているが、家族に対して感染症に関する情報を提供するまでには至っていない。	○	感染症予防に際し、面会時に注意してもらうことなど、家族に対して広報誌等を通じて情報を提供する取り組みに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間ではソファ、食卓で、自由にくつろげるようになっている。観葉植物や花を飾ったり、壁には工作物、行事の写真などが飾られ、季節感のある飾り付けなどの工夫もしている。部屋の乾燥に配慮し、加湿器を設置している。日差しはカーテンで調節しており、職員の立てる物音や掛け声、テレビの音量は適度なものとなっている。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、馴染みの家具、位牌や遺影などが持ち込まれており、利用者が居心地よく過ごせる空間作りを行っている。また、利用者の意向を確認しながら、一人ひとりに合った居室作りの支援を行っている。		

※   は、重点項目。